

【構想の概要】

世界リーディング・ユニバーシティにふさわしい、質の高い国際的教育環境のもとで国際社会における指導的人材の育成・輩出を目指す。優秀な外国人留学生に対する総長特別奨学生制度を大学院生及び学部生対象に創設し、宿舎 University Houseなどの留学生支援を充実するとともに、日本人学生の海外派遣にも重点を置く。グローバルネットワークを活用した戦略的国際化を進め、特にロシアとの間では、海外大学共同事務所を通じた活動を推進する。

■ 英語コースの開講

大学院レベルでは、既設の3英語コースに加え、平成21年に1コース、平成22年に3コース、平成23年には4コースが開講し、平成24年には更に2コースが開講予定である。学部レベルでは、平成23年10月より3コースが開講した。

英語コース名(大学院)及び開講年度(平成)

- ・ サステナブル環境学国際コース(環境科学):H21
- ・ 国際機械工学修士・博士コース(工学):H22
- ・ 国際材料科学修士コース(工学):H22
- ・ 経済学・経営学国際コース:H22
- ・ インフォメーション・テクノロジー・アント・サイエンス・コース(情報科学):H23
- ・ 生命科学国際コース(生命科学):H23
- ・ インターフェイス口腔健康科学(歯学):H23
- ・ 言語総合科学コース(国際文化):H23
- ・ 基礎医学コース(医学):H24
- ・ ネットワークメディスンコース(医学):H24

英語コース名(学部)

- (平成23年度開講)
- ・ 先端物質科学コース
- ・ 国際機械工学学士コース
- ・ 国際海洋生物科学コース

■ 国際教育院の設置

平成21年11月新設。グローバル30英語コースの企画、実施及び支援を行うことにより、国際的な教育環境を整備。同時に事務体制の強化を図るために、グローバル30推進室を設置。

(ユニバーシティハウス三条)



■ 留学生受入れ体制の充実

○ 「総長特別奨学生制度」を大学院生及び学部生対象に創設

支給内容: 授業料、検定料、入学料相当の支援

支給人数: (大学院)100人程度、(学部生)120人程度

○ ハウジングを主とした留学生サポートの強化

「赴日前留学生対象ガイドブック」(日本語・英語・中国語・韓国語の四カ国語対応)「日英ハウジングガイドブック」の作成。東北大学(片平)外国人研究員等宿泊施設(仮称)を、平成24年竣工予定。

■ 短期受入プログラムの拡充による留学生受入の促進

より多くの優秀な留学生を受け入れるため、短期受入プログラムの多様化と拡充を図っている。既存のプログラムに加え平成22年には人文社会系の学生を対象とした短期交換留学プログラムと工学系の大学院生を対象としたサマープログラムを開始した。さらに、平成23年には人文社会系の学生を対象としたサマープログラムも実施し、幅広い分野やレベル、ニーズに対応し、特色ある教育機会を提供できるようになった。本学の留学生数はグローバル30採択後、平成21年5月の1,346名から平成22年5月には1,511名へと増加したが、震災の影響により、それ以降は下降した(平成23年5月:1498名、平成24年5月:1,431名)。マイナスイメージを払拭するため、平成23年度は震災復興の周知活動を強化し、平成24年度の受入の土台を構築した。結果、サマープログラムは平成23年度と比較し、飛躍的に増加した(平成23年度:16名→平成24年度:39名)。

ロシア海外大学共同利用事務所
(モスクワ大学内)



■ 日本人学生の派遣の増加

積極的な派遣促進と本学学生への派遣留学支援体制の拡充により、新たな短期学生交換プログラムを発足させることで、日本人学生の派遣数の増加にも成功している。

■ 海外大学共同利用事務所を通じた活動

平成22年9月、モスクワ大学内に「ロシア海外大学共同利用事務所」を開設し、第3回日露学長会議(平成24年3月)をはじめとした日露大学間交流に資する諸事業の企画・実施等を推進。

■ 大学間交流協定等の拡大

平成23年度は、ハイデルベルグ大学、ハワイ大学マノア校、極東連邦大学等との協定を新たに締結し、大学間交流協定数が増加した(155件(平成23年5月現在)→172件(平成24年5月現在))。

■ 積極的な広報活動

○ 東北大学ディの開催 : 上海交通大学(H21)、中国東北大学(H22)、バンドン工科大学(H22)、廈門大学(H22)、清華大学(H22)、重慶大学(H22)、大連理工大学(H23)

○ 日本留学説明会の参加・高校訪問 : 海外で行われた日本留学説明会に積極的に参加。高校訪問は平成21年度に2校(中国)、平成22年度に7カ国28校、平成23年度に11カ国67校へ行き、東北大学学部英語コースを紹介。

○ 海外高校教員招聘 : 平成21年度に7カ国11校より15名の高校教員を招聘し、東北大学学部英語コースを紹介。

○ 刊行物及びホームページ等の作成 : FGLリーフレット(英、中、韓、ベトナム、インドネシア、タイ)等刊行物を作成、雑誌「サイエンス」等に掲載、ホームページの立ち上げ等。

グローバル30 筑波大学の取組

【構想の概要】

本学は、建学の理念である「開かれた大学」として、世界の人々と協働できるグローバル人材の育成を目指して、21世紀における教育・研究の世界的教育研究拠点の構築を目指している。グローバル30の取り組みにおいては、留学生数及び海外派遣日本人学生の飛躍的な増加を目指す。本構想は、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する環境が具現化出来る「国際性の日常化」の契機であると確信している。

□ネットワーク形成

東北大学、名古屋大学とのパイロットネットワーク、G30関東・甲信越大学間コンソーシアム会議、日本・北アフリカ学術連携ネットワークを展開し、国際化に係る本学の資源(超短期教育プログラム、日本語教育システム等)の共有化の実現に努めた。

□留学生受入れの新しい支援体制

○国際化推進体制整備

平成21年度に学長の下に設置した「国際化推進委員会」及び「国際戦略室」を見直し、国際ネットワーク化推進体制を整備した。平成22年度に学群及び大学院英語プログラムを新設するとともに、初めての試みである英語プログラム推進上の問題点を解決するためのG30学群プログラム連絡会を発足、さらに平成23年度からは大学院プログラム連絡会、事務連絡会の運営を開始した。

○経済的支援の充実

本学独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」を拡充し、海外派遣日本人学生・受入留学生への支給を開始した。さらに、G30学群英語プログラムに入学した優秀な留学生には、入学金及び授業料の免除を制度化した。

○学生宿舎の整備

留学生等の住環境の整備のため、平成21年度から5年間計画で全60棟3,927室のうち26棟1,588室の改修を計画した。平成24年度末までに22棟1,376室の改修が完了する。

○留学生相談業務の充実

留学生数の増加及び日本語を解さない留学生のために、カウンセリング担当教員1名を保健管理センターに配置した。また、英語プログラム入学者に対し、教育面及び学生生活に関するアンケートを実施し、現況把握を行った。

○日本語e-learningの整備

e-learningを利用した日本語教育システムを開発・整備し、G30プログラム入学予定者の渡日前教育を実施するとともに国内外のコンソーシアム大学との共有化に向けた試験運用を行った。

□開講している英語プログラム

○学群英語プログラム及び大学院英語プログラム

平成22年度に学群英語プログラムとして「生命環境学際プログラム」「社会国際学教育プログラム」の2コースを新設。平成24年度現在、学士課程3・修士課程18・博士課程6、合計27コースが開講されている。

○教育の質の保証

グローバルレベルの教育の質の保証を達成するため、外国人教員の参画のもとにカリキュラム、履修基準、成績評価基準、授業評価法などを制度化した。

□留学生獲得の方策

○英語プログラム用のホームページ(www.global.tsukuba.ac.jp)のリニューアル及びFacebookによる広報を行なった。また、独自の留学説明会の開催、及び海外で開催される留学説明会等にも積極的に参加した(19カ国)。

□職員の国際化

○職員には英語研修への参加を促進するとともに、留学説明会には学内から参加者を公募し事務系職員の国際化を図った。

□海外大学共同利用事務所(BUTUJ)の活動

○平成24年2月につくば市において、第2回日本・北アフリカ学長会議を開催した。日本から27大学、北アフリカ側6か国から20大学・高等教育学院の学長、副学長、大学代表者が参加した。

○全国の大学の参加による日本留学説明会の開催;平成23年11月チュニジア、平成24年3月モロッコ



<平成23年度筑波大学学園祭にて、学生と教員による英語プログラムの紹介ブース>

(年度)	21	22	23
受入外国人留学生数 (各年度12月1日現在)	1,740	1,944	1,849
海外派遣 日本人学生数	256	291	459
交流協定締結数 (()内は国・地域数。 各年度3月1日現在の数)	192 (51)	226 (54)	245 (59)

<過去3年間の国際交流実績>



<日本留学説明会の開催
(平成23年11月、チュニジア・ハマメット)>

【構想の概要】

東京大学憲章、東京大学の行動シナリオ等に基づき、グローバルキャンパスを形成し、世界の学術のトップを目指す教育研究のプラットフォームとして国際的存在感を一層高めるべく、留学生受入のための環境整備、英語による授業のみで学位を取得できるコースの設置等を推進し、大学全体としてより均整のとれた国際化の実現を目指す。

■ 英語コースの開講

平成22年10月に英語による授業のみで学位を取得できる9コースを新設し、現在、大学院経済学研究科、理学系研究科、工学系研究科、農学生命科学研究科、医学系研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、学際情報学府、公共政策学教育部にて約30の英語コースが開講している。また、24年度秋の学部英語コース開設に向け、準備を進めている。

〈英語コース:講義の様子〉



■ 留学生受入れ体制の充実

○ 統合的なサービスの提供

「国際センター」を設置し、本郷、駒場、柏の3キャンパスにそれぞれ窓口を開設。平成22年4月から、出入国支援、宿舎紹介、日本語教育、就職支援等の統合的なサービス提供を開始。

○ 受入環境の整備

学務関係規則等の学内文書の英文化を推進し、Web学務システム(Ut-mate、Utask-web)の英語化を行った。

○ 国際業務に対応しうる事務職員の養成

外国語での対応可能な事務職員を増加させるため、国内において語学研修を実施すると共に、海外大学における業務研修や教育支援体制についての調査を実施。



〈インド事務所開所式の様子〉



○ 日本語教育体制の強化

留学生向けの日本語・日本事情プログラムを充実。

■ 日本人学生の国際化

日本人学生の英語力強化のための自己学習システム開発や英語講義の充実を図った。また、海外大学への派遣促進のため、学内での留学フェア等説明会を実施。協定校等への留学プログラム等の充実をほかり、国際的な研究・教育を担うグローバル人材の育成を目指す。

■ 海外大学共同利用事務所の設置

インド・バンガロールに海外大学共同利用事務所を設置し、平成24年2月に開所式を開催した。日本留学に関するワンストップサービスの提供、日本留学説明会等を行う。

〈交流: IARUグローバルサマープログラムの様子〉



■ 海外大学との教育連携等の拡大

本学が加盟するIARU(国際研究型大学連合)、APRU(環太平洋大学協会)、AEARU(東アジア研究型大学協会)等大学連合の枠組みを利用した短期学生交流プログラムを実施し、協定に基づく学生・研究者交流等を拡大。平成23年5月1日時点で354件だった大学間交流協定数は、平成24年5月1日現在、360件に増加。

【構想の概要】

これまで実施してきた質の高い学部・大学院教育を留学生にもより広く提供し、日本人と留学生が共に学ぶ新たな環境を構築し、「世界のNagoya University」への転換を目指す。ウズベキスタン、ベトナム、米国、中国、モンゴル、カンボジア等の海外拠点や国際的な大学連携組織との協力による学生募集活動を展開するとともに、キャリア・デベロップメントオフィスを設置し、国内企業等への就職を希望する留学生に対する支援を充実させる。

■ 留学生受入れ体制の充実

○ 留学生の利便性の向上

インターネットによる出願や、クレジットカードによる決済等での入学検定料の支払い等が可能となる「出願・入金・合否発表システム」を開発し運用を開始。教務・履修関係や学位規程、危機管理情報などの学内文書の英語化を推進するとともに、翻訳された文書をデータベース化した「名古屋大学学内情報翻訳データベース (NUTRIAD)」を開発し、他大学にも公開した。

○ 生活環境の充実

自己資金により、留学生宿舎を平成22年4月に新築(106室)、また平成23年9月に新築(93室)。宿舎には、生活支援アドバイザーを配置して、留学生の日本定着の支援を充実させている。



【G30国際プログラムの授業風景】



【G30国際プログラム群入学式(平成23年10月)】

★ 国際プログラム群第1期生の受入 — 留学生を迎え本格始動 —

- ・学部5プログラム(自動車工学、物理系、化学系、生物系、国際社会科学)に**13カ国37名**が入学
- ・大学院6プログラム(物理数理系、化学系、生物系、医学系、経済・ビジネス国際、比較言語文化)に**8カ国19名**が入学



英語による授業で学位取得
できるプログラムを開始

■ 海外大学共同利用事務所の活用

○ 情報発信

平成22年3月ウズベキスタンに事務所を開設以降、G30採択校を紹介するパネルを展示し、各大学から提供のあった資料等を閲覧するスペースを設け、情報発信を積極的に行った。平成23年度においては、現地の学生等1600名以上(前年度約900名)の訪問があった。

○ 留学フェアの開催

平成23年11月タシケントにおいて、本学が主催する「日本留学フェア2011」を開催し、本学の他に北海道大学・東北大学・筑波大学・明治大学・立命館アジア太平洋大学(APU)が参加し、学生のほか現地メディアや教育関係者約1000名の参加があった。現地の新聞・テレビで報道され、日本の大学の情報発信にも繋がった。

○ 日本・ウズベキスタン学長会議の開催

ウズベキスタン事務所を活用し、日本・ウズベキスタン間の大学交流の促進を図るため、本学がホスト校となり平成23年11月に開催した。日本側からは国立、私立16大学のほか、文部科学省等が参加した。ウズベキスタン側からは各地域を代表する10大学のほか、ウズベキスタン共和国大統領府、中高等教育省等が参加した。



【「日本留学フェア2011」タシケント】



【日本・ウズベキスタン学長会議】

留学生の声!

G30学生として名古屋大学に来て、本当によかったと思っています。世界中から集まるクラスメイトや先生達に囲まれ、毎日が新しい発見の連続です。名古屋大学G30は、私にたくさんのチャンスや友人をもたらしてくれました。生涯忘れられないものとなるであろうこれからの学生生活が、今から楽しみで仕方ありません!
(国際社会科学在籍Aさん)



【G30学生の皆さん】

【構想の概要】

京都大学の持つ世界最先端の独創的な研究資源を活かし、地球社会の現代的な課題に挑戦する次世代リーダー育成のための教育を行う。英語で授業を行う教育コースを、学部・大学院で開講し、アジア、アフリカ、欧米など、世界各地から優れた留学生を集め、日本人学生も加えて共に学ばせる。同時に、本学の海外ネットワークを活用し、日本人学生の海外体験を促進する。こうした取組を通じて、将来、世界のリーダーとして活躍できる国際的な人材を育てることを目指す。

京都大学—ベトナム国家大学ハノイ共同事務所(VKCO)の活動

京都大学-ベトナム国家大学ハノイ共同利用事務所では、日本の大学の共同利用事務所として情報発信やセミナーの開催、留学説明会や面接の支援など、さまざまな活動を行っています。

中川正春文部科学大臣がVKCOをご訪問



◀事務所についての説明を受ける中川文部科学大臣(当時)

2012年1月8日、中川文部科学大臣(当時)がベトナム国家大学ハノイを訪問され、VKCOのベトナムでの活動や役割についての説明を受け、その取組に理解を深めておられました。

VKCO 1周年記念 G30 日本教育セミナー 2011 を開催

2011年9月17日、開所1周年を記念して、ハノイ国家大学外語大で「G30日本教育セミナー 2011」を開催しました。ベトナム側からは50機関、日本側からはハノイに事務所を持つ日本の4大学が参加し双方向的な教育と研究の発展について、意見・要望が交わされました。



セミナーの様子▶



日本留学説明会を開催

2011年11月15日、ベトナム国家大学ハノイでG30推進事務局と合同で、更なる優秀な学生の獲得を目指し、留学説明会を開催しました。

◀留学説明会の様子

英語コースの開講

京都大学の英語コースは2012年4月をもって全てのコースが予定通り開講されました。

農学研究科の取組



▲企業のエンジニアによる実演

農学研究科では、産業界との連携を深めるため、全11回、産業界から優れた農業をテーマにした講義を開講し、9社の民間企業から専門家を講師として招きました。

企業で第一線で活躍されている専門家による講義や、エンジニアによる実演が行われ、生徒との活発な質疑応答も見られました。

工学部「国際コース」

本学唯一の学部コースである、工学部の国際コースでは、海外からの留学生と一般試験を経て分属された学生が席を並べて同じ教室で学んでいます。

国際コースの授業の様子▶



工学部 国際コース 2012年入学 Zhu Feng さん (中国)

このコースに入學して、見識の高い先生方や、さまざまな国から集まった知的で親切的なクラス仲間と知り合う事ができて、素晴らしい機会に感謝しています。今はこれからの専攻の授業がとても楽しみです。

これからも困難もあるとは思いますが、クラスの仲間や先生方と一緒に知識やスキルを高めながらゴールに向かって頑張りたいと思っています。



工学部 国際コース 2011年入学 山本 萌美さん (日本)

国際コースは想像していた通り少数精鋭の授業が行われ、先生方はとても熱心に教えて下さり、1回生からこのような授業が受けられるのは国際コースならではだと思います。国際コースに入ったことで将来への視野が広がり、日本だけでなく海外も視野にいれて考えられるようになりました。

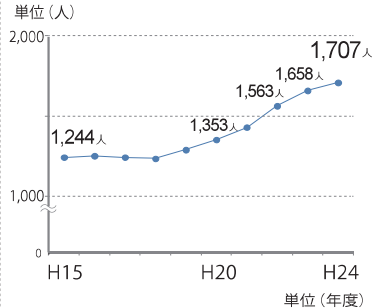
私が入学してから1年が経ちましたが、この1年は長く感じられました。最初は英語の講義にわからないところもありましたが、だんだん英語が聞き取れるようになり、今度は内容の難しさに戸惑うこともありました。この1年はクラスの友人や先生方、スタッフの方々のサポートがあったの1年だったと思います。



外国人留学生の受入の増加

本学の外国人留学生の総数は平成15年度では、1,244人でしたが、平成24年には1,700人を超え、特にその中でも大学院・学部への入学者数が近年増えており、G30の取組みの効果が数の上でも現れていると考えられます。

外国人留学生受入数の推移 (平成15年～平成24年)



G30 国際教育指導研究シンポジウムを開催



2011年12月7日、「留学交流の危機管理とヘルスケア」をテーマに、G30国際教育指導研究シンポジウムを京都大学主催、大阪大学、同志社大学、立命館大学共催で開催しました。

◀パネルディスカッションの様子

留学生の工場見学を開催

2011年9月28日、グローバル30に採択された京都の3大学(本学、同志社大学、立命館大学)が産業界との連携活動の一環として開催し、日本での就職に興味を持つ留学生達が、滋賀県内に工場がある計量機器メーカーおよびシートベルト業界大手メーカーの2工場を見学しました。

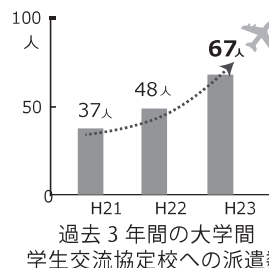
製品を囲んで研究者と談話する留学生 ▲



日本人学生の国際化に関する取組

平成23年度に単位認定が可能な超短期プログラムを複数実施し、需要の高い英語圏への留学の機会拡大に取り組みました。これらの超短期留学への参加をきっかけに、海外留学を志す日本人学生の数が増加しており、大学間交流協定による交換留学への平成23年度の出願者は前年比で1.5倍に、実際の派遣者数も48人から67人に増加しています。今後も、超短期プログラムをきっかけに海外留学を志す学生が増えると期待されています。

カリフォルニア大学デービス校エクステンション実習型・夏季短期留学プログラムの様子



学内文書英訳CDの配付

学生募集要項や授業料免除関係書類などの留学生の受け入れに必要な学内文書、または学生募集や教務に関する用語について標準英語版を作成しました。これらの資料を学内で共有するとともに、CD-ROMを作成し、G30採択大学、関西圏の主な大学に配付しました。



全学の日本人留学生数 (海外渡航届・願提出者数に基づく)
H23年度 949名
H22年度 643名 ▲

【構想の概要】

大阪大学は、本事業を通じ、海外から積極的に優秀な留学生を受入れ、多様な人材により構成されるグローバルキャンパスの早期実現に努める。

また、ネットワークを形成した国内の他大学との協働による得られた成果をそれぞれに還元し、併せて産業界と密接に連携して留学生キャリア支援を進めていく。

■全英語コースの開講

平成23年10月に「人間科学コース」が開講し、本事業で計画した学部2コース、大学院2コース全てに学生が入学した。学生の出身国は日本を含め、中国・ベトナムなど20あまりの国・地域にわたっている。

●英語コースで学ぶ学生の声

「このコースは世界の縮図のようなもので、イギリス・韓国・スウェーデン・アメリカなどの様々な国の方が在籍しています。ですから、様々な国の文化が1つのクラスの中に存在しますが、文化から見えるステレオタイプの人間像と実際の人間は違うもので、それを学べるのがこのクラスの利点の1つだと思います。」

(化学・生物学複合メジャーコース 女子学生 韓国)

「一年次から基礎分野の科目だけでなく、Global CitizenshipやContemporary Japanの2つの専門分野と関連した科目も学べるし、卒業する際に十分な能力が身につくよう設計されたカリキュラムがとても優れていると感じています。少人数制で家族のような感じで楽しいです。また教員との距離も近く、学習や生活すべてにおいてきめ細かくサポートしてもらえます。」

(人間科学コース 男子学生 アメリカ合衆国)



〈ネットワーク形成に関する協定書調印式〉



〈タイ・バンコクで開催された合同留学フェア〉

■ネットワークの形成と積極的な活動を推進

大学の国際化を協働して推進するために、平成23年7月に関西大学、関西学院大学、神戸大学との間で、阪神地区大学国際化推進ネットワーク(略称:阪神ネット)を結成した。

また、阪神ネットによる活動として7月に合同留学フェアをバンコク市内で開催し、多数の留学希望の学生を集めた。

8月には、阪神ネット教職員ワークショップを開催し、4大学の教職員がそれぞれの分科会で、国際化に関する諸課題の検討を行った。

12月には、4大学の学生と経済界との連携で学生グローバル・コンピテンスワークショップを開催した。

平成24年2月には国際業務担当職員を対象にスタッフ・ディベロップメントを実施した。この阪神ネットの活動を積極的に推進していくために「阪神ネット実務者会議」を設置し、4大学間の連携を図っている。

■教育の質保障の確保

人間科学コースでは、自発的な取組として「教育の質保証のためのハンドブック」を和英双方で作成し、成績評価の基準等を明示することでコース内教員の成績管理の共通化に努め、併せてファカルティ・ディベロップメントにおいても同ハンドブックを活用した。

グローバル30 九州大学の取組

【構想の概要】

アジアを中心に8か国・地域(中国・韓国・台湾・ベトナム・タイ・インドネシア・エジプト・オーストラリア)を受入重点国として設定し、「アジア重視戦略」を展開。留学生の入口から出口までの一貫した国際化拠点整備を行い、世界に開かれた教育研究環境を構築する。グローバル30の成果の上に、平成32年度までに、全学横断的に英語による教養教育を行う「国際教養学部(仮称)」を創設し、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学を目指す。

■ 国際(英語)コースの開講

平成22年度10月に開設した学士課程国際コース(工学部・農学部)の第二期生として平成23年度は21人の留学生が入学した。また、大学院(学府)では、人文科学府、比較社会文化学府、医学系学府など7学府で新たに30コースを開講。(大学院では、平成24年秋までに、全17学府に57コースを開講する予定。)



〈学部国際コース入学式〉

■ 留学生リクルート活動の展開

学士課程国際コースを中心とした学生リクルートのため、平成23年度は、受入重点国等13か国・地域の50以上の高校等でプロモーション活動を実施するとともに、日本学生支援機構や本事業推進事務局、福岡県留学生サポートセンター等が主催する海外での留学フェアに積極的に参加した。



〈マレーシアの高校でのプロモーション活動〉

■ 留学生等受入れ体制の充実

○ 「サポートセンター」におけるワンストップサービスの提供

留学生・外国人教員へのワンストップサービスを行う「外国人留学生・研究者サポートセンター」を各キャンパス(7か所)に設置。計16人のスタッフが、ビザ手続、空港出迎え、住居紹介などの修学・生活支援サービスを提供。

○ 奨学金等の充実

学士課程国際コース生を対象に、大学独自の奨学金(月額7万円)、授業料半額免除、渡日旅費、宿舍の優先斡旋の支援を実施。

○ 大学と地域が一体となった支援の強化

「福岡県留学生サポートセンター」、「福岡地域留学生交流推進協議会」、福岡県、福岡市等との連携を強化。

■ 海外大学共同利用事務所の運営

カイロオフィス(海外大学共同利用事務所)では、平成23年10月に現地エジプト人学生及び高校教員等を招いて本学との遠隔説明会を実施するなど、引き続き日本への留学生数の増加に取り組んでいる。

平成24年3月には、東京でエジプトの政府機関、大学、高校の関係者を招き、日本の大学関係者を対象として、エジプトの教育制度等の理解促進を目的に日本・エジプトセミナーを開催した。

【カイロオフィス(海外大学共同利用事務所)の主な活動内容】

1. 情報の収集・分析: エジプトの教育研究機関の情報等を収集
2. 大学説明会: 日本の大学説明会の企画と実施、情報提供
3. アドミッション: 入試・面接等の会場手配
4. 渡日前オリエンテーション
5. 共同研究等の支援
6. 在エジプト関連機関との連携
7. 日本留学同窓会(Japan Egypt Network=JEN)の運営

■ 海外大学との教育連携等の拡大

JTW(Japan in Today's World)、ATW(Asia in Today's World)、AsTW(ASEAN in Today's World)等の大学独自の留学生交流プログラム(英語による短期留学プログラム)を実施。

平成23年度は、部局間交流協定7件を新たに締結し、学生交流等を推進。

また、EUの情報発信・交流拠点となるEUIJ九州(EU Institute in Japan, Kyushu)を平成23年4月に設立、連携大学である西南学院大学及び福岡女子大学と協働して、EU加盟国の大学との教育連携、学生交流等を推進。